

令和6年度 1月号 令和7年1月8日発行

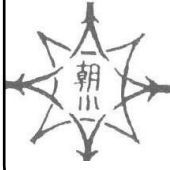
児童数595名

《学校教育目標》

かしこい子

やさしい子

たくましい子



朝霞第四小だより

朝霞市立朝霞第四小学校 〒351-0015 朝霞市幸町1-6-9
TEL (461) 0363 E-Mail 4shou@asaka-s.ed.jp

「新たな年に学ぶこと」

校長 原口 憲充

新年明けましておめでとうございます。保護者、地域の皆様におかれましてはご家族お揃いでよい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、本校の教育活動に対しまして保護者、地域の皆様のご支援とご協力をいただきありがとうございました。子ども達にとりましても、学校にとりましても充実した9ヵ月間でした。心から感謝とお礼を申し上げます。また、私にとっては「無我夢中」で取り組んだ9ヵ月間でしたが本年は昨年の反省の上に立ち、さらに子ども達にとって「充実の年」にしたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

さて、私がこの冬休みに読んだ本の中で「なるほど」と思ったトピックスがありますので、今回は皆さんにお伝えしたいと思えます。そのお話は「大きな壺と大きな石」というタイトルです。ぜひ読んでみてください。

大きな壺と大きな石

ある大学の先生が大きな空の壺を用意して、その中に石を入れ学生とお話をしていました。先生ははじめ空の壺に、石を入れていきました。石が壺いっぱいに入ったところで、先生は学生に「この壺は満杯か」と尋ねました。学生は「満杯です」と答えましたが、先生の答えは「いいやまだ満杯ではない」でした。そして先生は、壺を振りながら砂利を入れていきました。砂利を入れた後「この壺は満杯か」と学生に尋ねました。すると学生は「多分満杯ではありません」と答えました。先生は「そうだ」と言って、次に砂を入れはじめました。その後先生は再び「この壺は満杯か」と尋ねました。学生は「満杯ではありません」と答え、水を壺の縁までなみなみと注ぎました。学生は「これで壺の中は満杯になりました」と答えました。すると先生は学生に「僕が何を言いたいのかわかるか？」と尋ねました。ある学生は、「少々の無理をしても詰め込めばなんとかなるということなのではないでしょうか」と答えました。すると先生は言いました。「そうじゃない。最初に大きな石を入れない限り、壺の中には大きな石は二度と入らない。大きな石とは君たちにとって一番大事なものであり、それを一番はじめに壺の中に入れないと、君たちは永遠に大事なものを失うことになる。もし君たちが小さな砂利や砂や、つまり自分にとってあまり大切でないもので自分の壺を満たしたならば、君達の人生はつまらないものになってしまう。だから大切なものを見極める力を身につけなさい。」という素敵なお話です。

さて、あなたにとって大切なものは何ですか。それを見極めること、それを優先して取り組むことの大切さを、新たな年にぜひ学んでください。